

平成 28 年 6 月 23 日



各 位

会 社 名 株式会社テクノメディカ
代表者名 代表取締役社長 實吉 政知
(コード：6678、東証第1部)
問合せ先 総務室長 伊藤 雅章
(TEL. 045-948-1961)

第三者委員会の調査報告書受領に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 4 月 28 日付けで公表しております「第三者委員会設置および平成 28 年 3 月期決算短信の発表日の変更に関するお知らせ」のとおり、監査法人より売上取引に関する計上時期の妥当性につきご指摘をいただき、本件について的事实確認の調査および会計処理の適正性・妥当性についての検討を行うことを目的として、平成 28 年 4 月 28 日に第三者委員会を設置し、調査を進めてまいりました。

本日、第三者委員会より、調査の結果判明した事実関係および問題点の指摘、再発防止のための提言を目的とする調査報告書（以下「本報告書」といいます。）を受領いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 本報告書の内容

本報告書の概要は、以下の通りであります。

- ・弊社製品群のうち「採血管準備装置」の売上の一部について、平成 19 年 3 月期から売上高の前倒し計上が行われていた。また、「その他（電子カルテ・検査システム）」の売上の一部についても、平成 22 年 3 月期から売上高の前倒し計上が行われていた。
- ・海外への売上のうち、採血管準備装置等の売上の一部について、平成 22 年 3 月期から、売上高の前倒し計上が行われていた。また、一部の売上については架空であると認められた。
- ・関連当事者等との取引による売上高の一部において、架空の売上を含む不正な会計処理が、平成 19 年 3 月期から平成 26 年 3 月期の間、複数回にわたって行われていた。
- ・その他、4 つの売上取引において、売上の取消の不計上や前倒し売上、架空と認められる売上などの不正な会計処理が行われていた。
- ・以上の不適切な会計処理は、常に前年同期比での増収増益を目指す経営方針、とりわけ売上高を

前年対比で増加し続けるとの目標の中で行われた。また、役職員におけるコンプライアンスの意識が希薄であったことが、これらの不適切な会計処理の温床となった。

本報告書の詳細な内容につきましては、添付資料「調査報告書」をご覧ください。

なお、添付資料においては、個人情報保護の必要上、取引先および社内外の個人名について一部を除き匿名としておりますことをご了承ください。

2. 第三者委員会の調査結果を受けた当社の対応方針

当社は、本報告書において示された役職員のコンプライアンス意識の希薄さ、会計制度に関する理解の不足、経営監督機能の不全等の指摘を真摯に受け止め、提言の内容を踏まえたガバナンス体制の再構築、内部統制制度の再構築を中核とする再発防止策を策定し、これを着実に実行してまいります。具体的な再発防止策につきましては、策定次第速やかにお知らせいたします。

このたび、株主の皆様をはじめとする関係者の皆様に、多大なるご迷惑とご心配をお掛け致しましたことにつき、深くお詫び申し上げます。

以上